

2021 年度 9 月入学式・式辞

2021 年 9 月 21 日
早稲田大学・総長
田 中 愛 治

新入生の皆さん、ご家族・ご親族の皆様、ご入学おめでとうございます。

新入生の皆さんはもちろん、皆さんを育て、支えてこられたご家族・ご親族の皆様もたいへんお喜びのことと存じます。ここで、早稲田大学を代表して、私からお祝いの言葉を申し述べます。

本日は、新型コロナウイルスによるパンデミックの中で、私たちが新入生の皆さんをお迎えできることを、大変嬉しく思います。本来であれば、もっと盛大に入学式を開催するのですが、感染予防のために、この入学式の式典は例年よりは簡素にしております。

私たちは、新入生の皆さんをお迎えするために、今日の厳しい状況の中で、より良い学習環境を提供できるように、努力して参りました。この秋学期も 70 パーセントの授業が対面で出来るように準備をしてきました。そのために、昨年からは準備を始めて、教室の空調設備をすべて、1 時間あたり、1 人当たり 30 立方メートルの空気の換気が出る新型に入れ替えました。ですから、皆さんは安心して対面の授業を受けていただくことが出来ます。

新型コロナウイルスによるパンデミックから、私たちは一つの教訓を学んでいます。このような危機的状況が発生しますと、その負の影響は弱者や少数者の方に強く表れてしまうということです。新型コロナウイルス感染症でも、経済的に恵まれていない方、健康に不安のある方、またご実家から離れて生活している学生の方などが、より厳しい環境におかれています。私たちはこういう弱い立場にいる方たちに、思いやりを持って接しなくてはなりません。

早稲田大学には、学生の皆さん一人一人の多様性を受け入れる伝統があります。私は 2018 年 11 月に総長に就任してから、「しなやかな感性」ということを強調しています。「しなやかな感性」とは、国籍・人種・言語・宗教・文化・信条・身体障がい・性別・性的指向性などが自分と異なる人を受け入れ、理解し、敬意を表することができる感性です。これも早稲田の伝統の一つですので、在学中に「しなやかな感性」を育んでください。

もう一つ、皆さんに学んでいただきたい大事な考え方をご紹介します。皆さんには答えのない未知の問題にご自分なりの解決策を考える「たくましい知性」を育んでもらいたいのです。新型コロナウイルス感染症はその典型ですが、今日の地球上の問題は、人類の誰一人答えを知らない問題ばかりです。地球の温暖化、貧富の格差の拡大、民族・国家間の対立、先進民主主義国における国民の分断の拡大など、数えればきりがありません。この様な問題への完璧な解決策は世界中で誰一人持っていません。また、正解は一つではなく、複数の正解があるかもしれないのです。皆さんには、これらの未知の問題に対する解決策を自分の頭で考えるようになってもらいたいのです。早稲田大学で、このような世界人類が直面している問題の解決策を考える際に、皆さんにはどのようにご自分の頭を使って考えるのかを学んでもらいたいのです。皆さんには早稲田で、「たくましい知性」も身につけてもらいたいと願っています。

また、私は総長就任以来、20年、30年かかろうとも、早稲田大学を「世界で輝く WASEDA」にする、世界のトップレベルの大学にするという目標を掲げて参りました。この目標を掲げた背景には、アメリカの大学の進化と発展の歴史があります。1930年代のアメリカのトップ・スクール、たとえばハーバード大学やコロンビア大学、イエール大学などは、ヨーロッパの一流大学であったオックスフォード大学やパリ大学などに、大きく遅れをとっていました。しかし、アメリカのトップ・スクールは、その時に、世界の一流大学を目指す、という決意を固めたそうです。その結果、1970年代初頭には実際に世界のトップになりました。あのハーバードでさえも、40年もの歳月がかかったのです。早稲田大学が、単に「日本の一流大学である」という地位に甘んじていれば、永遠に、世界に一流と認められることは無いと思います。

私たち早稲田の教職員は、学生の皆さんが世界人類に貢献するという自信を持って、早稲田を巣立っていけるよう、そのための学習環境をお届けするように努めます。在学中は、早稲田大学の学生として、精一杯学んでください。同時に、学生生活を思い切り楽しんでください。そして、卒業までには、これだけは自分が打ち込んだと思えるものを、何か一つでも良いのでつかんでください。

皆さんの早稲田での学生生活が、実りあるものになることをお祈りしております。

新入生の皆さん、ご入学、本当におめでとうございます。